



京都大学 経営管理大学院 活動概要



2021年 12月27日(月)

京都大学 経営管理大学院



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

目次

1. これまでの活動経緯
2. 個別の教育プログラムの詳細
3. 今後の展開（グローバル化 iGSM構想）
4. 運営上の課題と戦略



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

2

1. これまでの活動経緯

京都大学 大学院経営管理教育部・研究部（経営管理大学院）

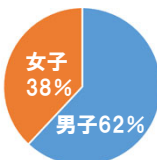
◆ 文理融合教育による高度経営人材の育成

- 2006年4月設置の経営専門職大学院
- 理念：先端的なマネジメント研究と高度専門的実務での人材育成
- MBA 100名/年（※2019年度より）
博士後期課程 7名/年

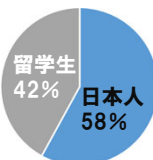


ダイバーシティのある学生構成（2021）

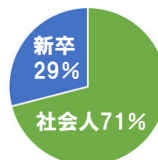
男性・女性割合



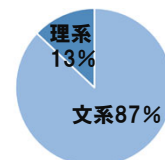
日本人・留学生



社会人・新卒

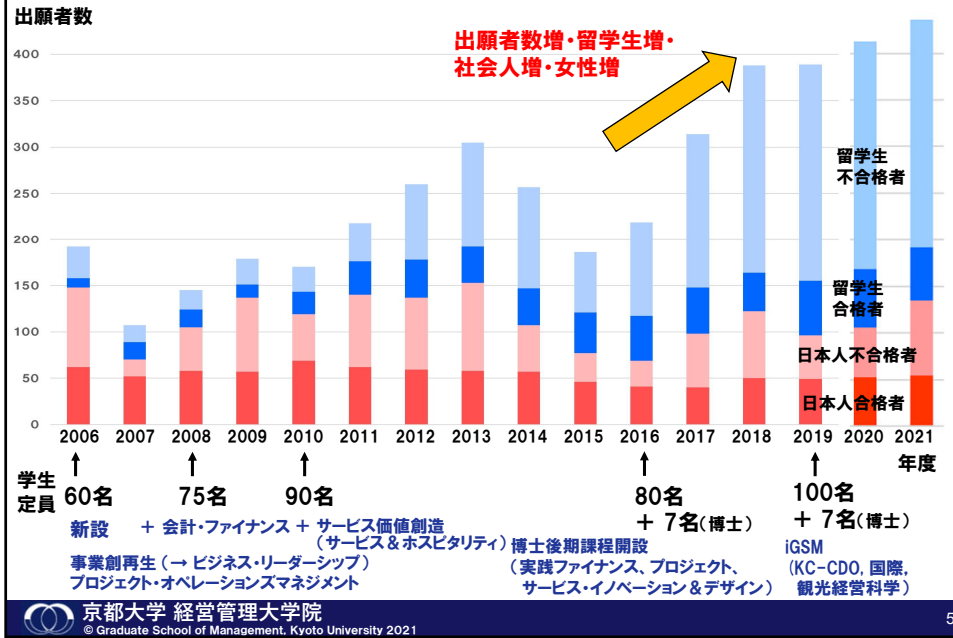


文系・理系



<http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp>

出願者数・合格者数の推移(MBA)



ミッション・ビジョン・バリュー

□ ミッション

- 本大学院は、先端的な**マネジメント研究**と高度に専門的な**実務**との架け橋となる教育体系を開発し、幅広い分野で役割を果たす個性ある人材を育成するとともに、研究の自由と自主を基礎に高い倫理性を備えた**マネジメント研究**により、地球社会の多様かつ調和の取れた発展に貢献する。

□ ビジョン

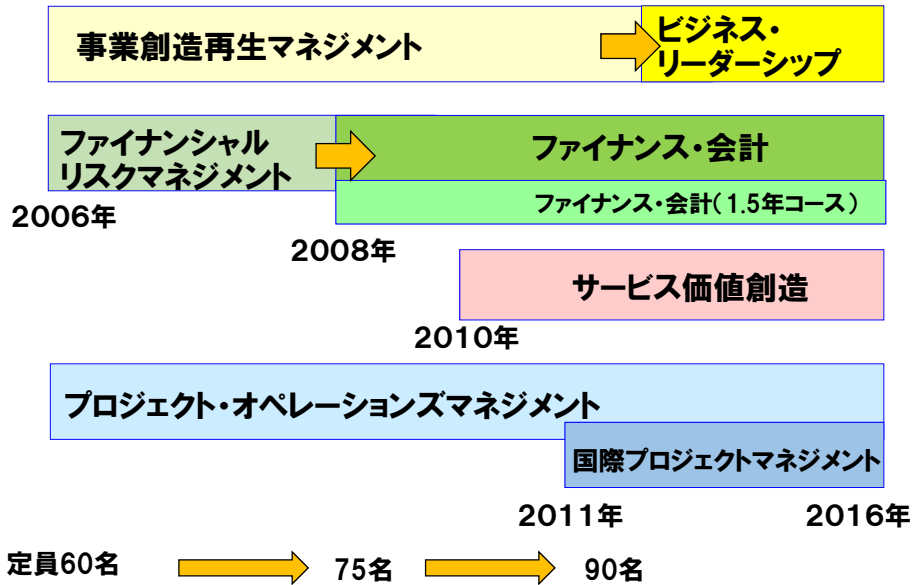
- 先端的**研究**と専門的な**実務教育**において、アジアトップクラスのユニークな**ビジネススクール**となることを目指す。

□ バリュー

- **自由・独立の精神**と**批判的討議**を重んずる**京都大学の伝統**を継承し、**産官学連携**による**先端的研究**の推進、および**高度な専門性**を備えた**実務教育**の開発を行う。
- **多様な人材**受け入れと開発された教育により、様々な分野で活躍する**グローバル人材**を輩出する。
- **世界**に開かれた**大学**として、**個性ある研究・教育**の提供と**社会**への貢献を果たす。



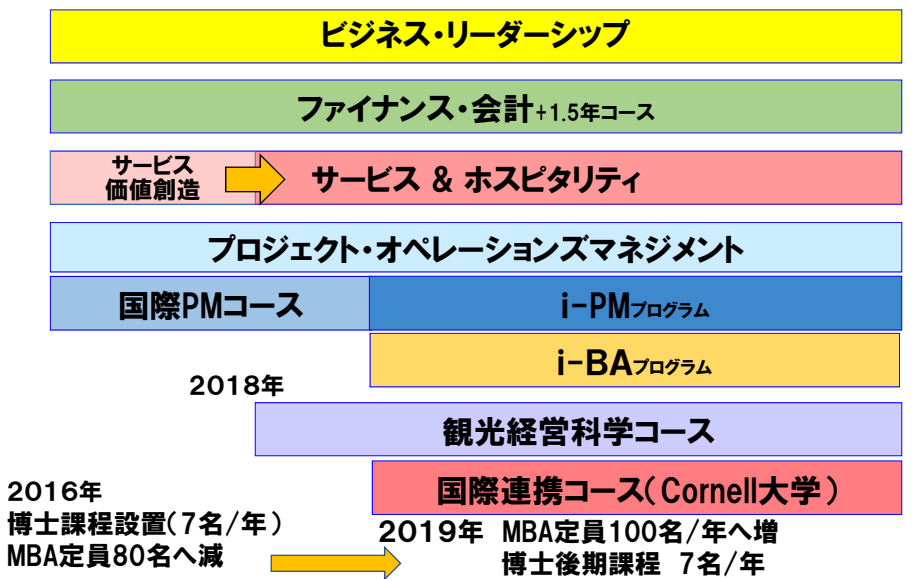
専門職学位課程(MBA)のプログラム編成 (1/2)



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

7

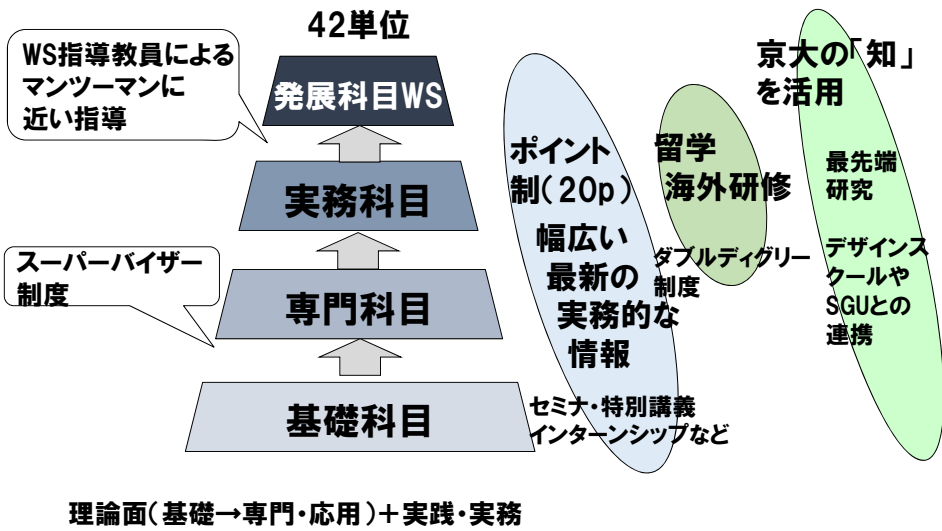
専門職学位課程(MBA)のプログラム編成 (2/2)



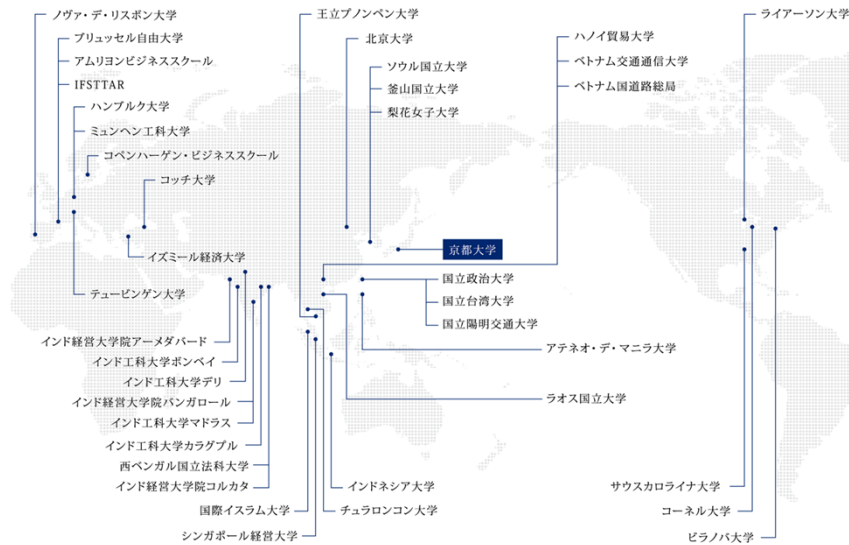
京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

8

専門職学位課程(MBA)の学修体系



部局レベルでの海外大学交流協定校一覧



提携校との国際交流の事例



11

教員構成（2021年12月現在）

□ 教員合計 126名（女性教員 15名）

■ 専任教員22名（女性教員 3名） ※ 定員内教員

- 教授 14名
- 准教授 4名
- 講師 1名
- 講師(任期あり) 3名

■ 特別教授 5名（女性教員 0名） ※ 実務家教員とみなす兼業教員

■ 特定教員 14名（女性教員 3名） ※ 有期雇用のフルタイム教員

- 特定教授 5名
- 特定准教授 3名
- 特定講師 3名
- 特定助教 3名

■ 特任教授 2名（女性教員 0名） ※ 特定の業務を担務する名誉教授

■ 客員教員 44名（女性教員 4名） ※ 時間雇用教員

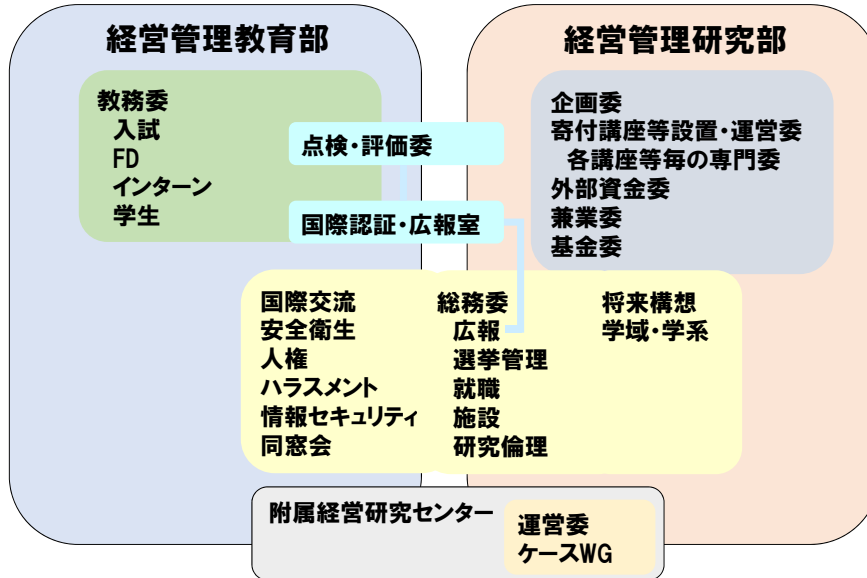
- 客員教授 33名
- 客員准教授 11名

■ 特命教員 37名（女性教員 4名） ※ 称号付与のみの教員(雇用関係なし)

- 特命教授 34名
- 特命准教授 1名
- 特命講師 2名

12

本大学院における内部運営組織



認証評価

大学としての評価
法人評価
自己点検評価
機関別認証評価

+

専門職大学院としての認証評価



2010年度、2015年度および2020年度
ABEST21* による認証「適合(Excellent)」(A評価)

*THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMMORROW, a 21st century organization

博士後期課程設置の要請

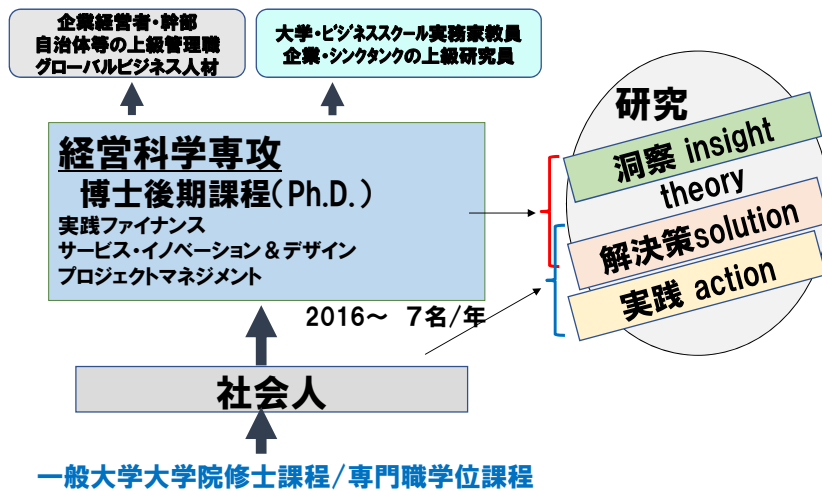
- 専門領域(プロジェクトマネジメント、サービス・イノベーション & デザイン、実践ファイナンス)の一層の高度化・専門化への対応
- グローバル化、世界標準の新しい教育体系への対応
- 日本型ビジネスモデルの世界展開を推進できる人材養成



修士・MBA取得者を対象とした
より高度なビジネス人材育成の必要性
⇒博士後期課程設置

博士後期課程の教育と出口

グローバルビジネスリーダー(高度専門職業人博士)



2019年度 博士学位取得者研究テーマ

- M & Aによる企業価値の創造と経営者および組織のコンピテンシー
- 高等教育サービスにおける価値共創の研究
- スチュワードシップ・コード導入後に機関投資家によるエンゲージメントがもたらした影響に関する実証分析
- 本邦債権投資家予想の性質と運用戦略への応用研究
- 退職給付ファイナンスの財務パフォーマンス分析
-スチュワードシップゲームを用いたアプローチ



2020年度 博士学位取得者研究テーマ

- コンソーシアムを形成した海外建設プロジェクトにおける遅延リスクのマネジメントに関する研究
- 日本の高流動性銘柄を投資対象とした運用戦略の実証研究
- 価値共創型サービス・マネジメントの実践的フレームワークの創生 -サービス特性を焦点としたマーケティング研究
- 京料理におけるサービスデザイン
- 創造的思考の脱中心的・現働的理論展開渾然一体としての創造理論
- おいしさへの理解を嗜好品の製品開発戦略に活かす
-ギャップモデルからの知覚品質アプローチ



産学連携活動： 寄附講座・産学共同講座・寄附講義

□ 寄附講座 (13)

- 企業金融と資本市場(みずほ証券)寄附講座
- 官民協働まちづくり実践(光亜興産株式会社)寄附講座
- 港湾物流高度化((一財)港湾空港総合技術センター/(一財)沿岸技術研究センター/(一財)みなと総合研究財団)寄附講座
- 道路アセットマネジメント政策(橋梁調査会)講座
- 管理会計(経営会計専門家協会)寄附講座
- 京都ものづくりバレー構想の研究と推進(JOHNAN)講座
- グローバル社会起業寄附講座
- シスメックス寄附講座 -企業と投資家-
- 国際メガ・インフラマネジメント政策(八千代エンジニアリング)講座
- インテグレイテッド・ホスピタリティ(グリーンハウス)寄附講座

- ブルータス・コンサルティング寄附講座 -バリュエーション(企業価値評価と株式価値評価)-
- プライベート・エクイティ(ポラリス・キャピタル・グループ)寄附講座
- アート・コミュニケーションデザインと組織経営寄附講座

□ 産学共同講座・EMBA (5)

- 証券投資研究教育産学共同講座
- アジアビジネス・リーダー人材育成産学共同講座
- 上級経営会計専門家プログラム
- 企業価値評価とファイナンス -理論・実践・モデリング-
- 情報学ビジネス実践講座

□ 寄附講義 (4)

- バブリック・リレーションズ寄附講義
- アビームコンサルティング寄附講義
- ソシエテ・ジェネラル証券寄附講義
- ユニゾン・キャピタル/Intellectual Innovations 寄附講義

※ その他、国交省、経産省、内閣府等からの教育研究プロジェクト受託など



研究活動： 科学研究費（研究代表者、2020年度）

- 中小企業における管理会計能力と財務業績の関係に関する経験的研究 基盤研究(B) 研究代表者 澤道紀生 教授
- オープン・イノベーションと既存企業による起業エコシステムの活用 基盤研究(B) 研究代表者 植山泰生 教授
- サービス産業における顧客志向性活性化に向けた組織変革の統合的分析 基盤研究(B) 研究代表者 若林直樹 教授
- 多国籍企業におけるブリッジ機能に関する統合的研究 基盤研究(B) 研究代表者 関口倫紀 教授
- エス・メソッドロジーの相互反映性概念に基づく組織化理論の再考 基盤研究(C) 研究代表者 山内裕 准教授
- 動的な顧客情報の活用に基づくサービスケイパビリティとその経営資源配分モデルの提案 基盤研究(C) 研究代表者 原良憲 教授
- 都市公共政策によるジェントリフィケーションの誘発分岐点と社会的公正の計量分析 基盤研究(C) 研究代表者 大庭哲治 准教授
- アセットマネジメントのための地域プラットフォームの経済価値と制度設計に関する研究 基盤研究(C) 研究代表者 小林潔司 産学連携教員
- 歴史的音変化の分析を通じた言語接触の痕跡から導く、多文化交流史の解明 若手研究 研究代表者 通山絵美 産学教員
- 演出技法を発問と役割演技に応用した、多様な感性を引き出す道徳教育手法の実践的開発 基盤研究(C) 研究代表者 運行 研究員
- Implications of Bridge Individuals and Bridging Roles for Headquarter-Subsidiary Relationships: a Mixed Method Empirical Study of Multinational 若手研究 研究代表者 Liu Ting 講師
- ラマン分光法を用いた骨材のASR反応性およびASR残存膨張量の評価方法の開発 基盤研究(B) 研究代表者 山本貴士 教授
- An Empirical Investigation of Bridge Individuals and Bridging Roles in Multinational Companies 研究活動スタート支援 研究代表者 Liu Ting 講師
- Cognitive Schemata in Experienced Negotiators: A Comparison Across Cultures, Industries, and Skill Levels (R1-R2延長) 基盤研究(C) 研究代表者 ウィリアム ベイパー 准教授
- アナログおよびデジタル・ゲームを包括した「ゲーム・エコシステム」構築の可能性 基盤研究(C) 研究代表者 松井啓之 教授
- 国際財務報告基準(IFRS)が企業へ与える実効効果(Real effects) 特別研究員奨励費 研究代表者 天野良明 特別研究員
- 起業スキル獲得の促進および評価のための教育技術開発に関する研究 外国人特別研究員奨励費 研究代表者 関口倫紀 教授
- 証券会社と企業間の資本関係が証券アナリストの公正性及びその影響 若手研究(B) 研究代表者 加藤政仁 講師
- 抗基礎を利用した地中熱ヒートポンプシステムの熱一流体-力学挙動に関する解析的検討 基盤研究(C) 研究代表者 本元小百合 准教授
- メガシティを対象とした水害タイムラインの構築とハザードマップの高度化 基盤研究(C) 研究代表者 戸田圭一 教授
- エージェントベースモデルを活用したアジア型マネジメントの探索的研究 挑戦的研究(萌芽) 研究代表者 関口倫紀 教授
- 企業家の省察についての二人称的アプローチとその有用性の検討 若手研究 研究代表者 伊藤智明 特定助教
- 伝統産業、観光等の地域発起業家の新市場創造におけるエフェクチュエーション 基盤研究(C) 研究代表者 若林靖永 教授
- 強靱な物流を実現するための交通とサプライチェーンの動的スーパーネットワーク解析 基盤研究(C) 研究代表者 山田忠史 教授



研究活動：科学研究費（研究代表者、2021年度）

- 中小企業における管理会計能力と財務業績の関係に関する経験的研究 基盤研究 (B) 研究代表者 澤邊紀生 教授
- サービス産業における顧客志向性活性化に向けた組織変革の統合的分析 基盤研究 (B) 研究代表者 若林直樹 教授
- 多国籍企業におけるブリッジ機能に関する統合的研究 基盤研究 (B) 研究代表者 関口倫紀 教授
- エスノメソロジーの相互反映性概念に基づく組織化理論の再考 基盤研究 (B) 研究代表者 山内裕 教授
- 動的な顧客情報の活用に基づくサービスケイパビリティとその経営資源配分モデルの提案 基盤研究 (B) 研究代表者 原良憲 教授
- 都市公共政策によるジェントリフィケーションの誘発分岐点と社会的公正の計量分析 基盤研究 (C) 研究代表者 大庭哲治 准教授
- アセットマネジメントのための地域プラットフォームの経済価値と制度設計に関する研究 基盤研究 (C) 研究代表者 小林潔司 産学連携教員
- 歴史的音変化の分析を通じた言語接触の痕跡から導く、多文化交流史の解明 若手研究 研究代表者 遠山絵美 産学教員
- 演出技法を発問と役割演技に応用した、多様な感性を引き出す道徳教育手法の実践的開発 基盤研究 (C) 研究代表者 運行 特定准教授
- Implications of Bridge Individuals and Bridging Roles for Headquarter-Subsidiary Relationships: a Mixed Method Empirical Study of Multinational Companies 若手研究 研究代表者 Liu Ting 講師
- ラマン分光法を用いた骨材のASR反応性およびASR残存膨張量の評価方法の開発 基盤研究 (B) 研究代表者 山本貢士 教授
- アナログおよびデジタル・ゲームを包括した「ゲーム・エコシステム学」構築の可能性 基盤研究 (C) 研究代表者 松井啓之 教授
- 証券会社と企業間の資本関係が証券アナリストの公正性に及ぼす影響 若手研究 (B) 研究代表者 加藤政仁 講師
- メガシティを対象とした水害タイムラインの構築とハザードマップの高度化 基盤研究 (C) 研究代表者 戸田圭一 教授
- エージェントベースモデルを活用したアジア型マネジメントの探索的研究 挑戦的研究(萌芽) 研究代表者 関口倫紀 教授
- 企業家の省察についての二人称的アプローチとその有用性の検討 若手研究 研究代表者 伊藤智明 特定助教
- 伝統産業、観光等の地域発起業者の新市場創造におけるエフェクチュエーション 基盤研究 (C) 研究代表者 若林靖永 教授
- 観光地のサービス品質と感染症セキュリティ品質が観光地ロイヤリティに与える影響 基盤研究 (C) 研究代表者 増田央 特定講師
- 技術を活用したヒトにとって心地良い顧客接点のデザイン 基盤研究 (C) 研究代表者 嶋田敏 講師
- 不完全競争下における公共政策の厚生効果：市場支配度指数アプローチによる理論と実証 基盤研究 (C) 研究代表者 安達貴教 准教授
- 偶発的マルチハザードに対する河川堤防のロバスト性評価の実現 基盤研究 (A) 研究代表者 肥後陽介 教授
- 土のミクロスケール多相系組織形態変化のモデル化—地盤変形予測技術の再構築— 挑戦的研究(開拓) 研究代表者 肥後陽介 教授



研究活動：受賞研究

関口倫紀 教授	論文「Integrating activity-system maps and NK model to understand organizations under dynamic environments」が、世界最大の経営学会であるAcademy of Management年次大会において、Academy of Management Education and Development Divisionの優秀論文 (Best Paper) に選出 (2021年)	本論文は、経営戦略論における活動システムマップの手法と、NKモデルと呼ばれるコンピュータシミュレーションの手法を組み合わせた新たなフレームワークを提案することで、環境変化が激しい中で活動する組織がどのように成果を出していくかの理解を促進することを示した。この新たなフレームワークが、経営教育の1つの手法として有用であることを示した点において、Academy of Management Management Education and Development Divisionから高い評価を得た。
安達貴教 准教授	日本応用経済学会 2020年度学会賞を受賞	応用経済学の分野において優れた研究成果を発表し、この分野の学術と同学会の発展に顕著な貢献を成したこと。
村上啓二 特定准教授	論文「鉱山ポートフォリオの長期最適化」がグローバルビジネス学会の第1回GBJ (Global Business Journal) 賞を受賞 (2021年7月)	本論文では、商社における鉱山事業を対象として収益やキャッシュフローを平準化させるため鉱山ポートフォリオを形成することにより、事業リスクをコントロールする長期最適化モデルの開発を行っている。さらに、鉱山売買取引の具体事例によるモデル計算を実施し、鉱山事業の実態に近い結果が得られたことより、構築されたモデルの信頼度が高いことが示されている。従来から金融工学に基づく投資家サイドの評価モデルは多数存在するが、事業会社としての商社を対象として鉱山ポートフォリオの長期最適化モデルを構築した本研究は新規性および有用性が高い。本論文はポートフォリオマネジメントに関わる研究に新たな発展をもたらしており、GBJ賞[論文部門]に相応しいと評価された。



研究活動②: 価値創造人材育成プログラム 「Kyoto Creative Assemblage」設立

- 担当教員: 山内 裕 教授
- 京都大学、京都市立芸術大学、京都工芸繊維大学の3大学を中心に、時代の最前線で活躍するデザイナー、アーティスト、起業家らが結集した、文部科学省「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」採択プログラム、「Kyoto Creative Assemblage*」を2022年度より開講する。誰もが創造性を求められるようになった現代社会において、その源泉を個人の中の閉じた能力に還元するのではなく、歴史を踏まえ、社会の微妙な変化を読み解くことで新たな時代を切り開く社会人の育成を目指す。
- 受講生は6~7ヶ月のプログラムを通して、人文社会学、アート、デザインの基本的な視座を学ぶとともに、自らの事業領域を題材としたプロジェクトの実施や、デザイナー、アーティスト、企業家らの講義、ワークショップを受講する。企業などの組織を代表して受講できる社会人を対象としている。社会人が受講しやすいように、オンラインなどを適宜活用して実施する。
- 開講に先駆け、2021年12月よりプログラムのコンセプトや教育内容を紹介するオンラインイベント「Prolegomena」を順次開催予定。

*Assemblage(アッサンブラージュ): 異なるものが集まること。均質で予定調和的な関係性を前提とするのではなく、緊張感をもった関係性を結びつつ常に生成変化していく動きとしての本プロジェクトのあり方と、社会を内部から読み替えていく創造性を育てるプロジェクトの趣意を表している。

広報活動

- 国際認証・広報室の設立 (2020年4月)
- **経営管理大学院ウェブサイト**をリニューアル (2021年1月)
デザインを一新して、ユーザーが見やすく、使いやすいサイトに刷新
- ホームページの大学院案内に経営管理大学院の紹介動画 (英語版) を掲載 (2021年4月)
- ホームページのニュース記事に「**新任教員のご紹介**」を掲載開始 (2020年6月)
- ホームページに女性研究者の活動を紹介する「**女性研究者の声**」ページを開設 (2021年8月)
- 「経営管理学部広報委員会内規」を制定 (2021年9月)
- 「経営管理大学院ホームページの記事掲載に関するガイドライン」を制定 (2021年9月)
- 「経営管理大学院サイトポリシー」を制定 (2021年11月)
- 「**経営管理大学院ニュースレター第1号**」を発行 (2021年12月)



「女性研究者の声」ページを開設

Women in Research | GEM Newsletter vol.1 / 2021.10



特集 女性研究者の声
研究者の日常は、様々なバックグラウンドをもつ女性研究者が活躍しています。彼女たちから聞く「研究者から経営者へメッセージ」をお届けいたします。

Asli M. Colpan (アスリ チョルパン)
経営戦略、企業文化、国際経営

現在の研究内容、今後の取り組み
私の研究テーマは、企業文化、コーポレート・ガバナンス、国際経営、経営者、特に先進国と新興国における多国籍企業に関するものです。私の研究は、Industrial and Corporate Change, Journal of Management Studies, Strategic Management Journal, Business History and Corporate Governance, An International Review など掲載されています。そして、Oxford handbook of Business Growth with Tapan Hibino and James Lounsbury, Oxford Global University Press, 2019 "Business Groups in the West: Origins, Evolution, and Resilience, Oxford: Oxford University Press with Tapan Hibino, 2019, Business Ethics and Institutions: The Resilience of Family Capitalism in Global Perspectives with Geoffrey Jones, New York Knowledge, 2020の共同編集者も務めました。2019年には、経営者や学生から女性研究者への声からなる本誌の巻頭を執筆しました。

研究以外の取り組み
所属: Asian Business & Management, 欧州企業史・組織史・マネジメント・企業史・Management and Organizational History のコア・メンバーを務めています。経営者や学生向けに、国際 MBA プログラム、EMBAプログラムを企画もしています。また、経営者や学生からの相談や質問にも対応し、ボリス・ベケット・グループの顧問も務めています。さらに、経営者や学生からの相談や質問にも対応し、ボリス・ベケット・グループの顧問も務めています。



Spring H. Han
サービスマーケティング
オーストラリア・マーケティング

現在の研究内容
My research aims to gain new green insights with opportunities to create ideas that explain what we see in the service sector. As is widely known, the technological advances are solving a new set of economic, ready in any industry. The nature of the business cannot be understood by a simple equation or by taking a single perspective. It can be accomplished by relating the business theories and concepts to current global issues and technological innovations. As a result, additional study on the effect of technology is required to comprehend a large scientific advance in providing services. My research interests are on customer-focused methods to determine casual and service excellence in order to improve performance and the customer experience.



After research symposium at the University of Cambridge
Big Ben, London, UK 2019

女子学生へのメッセージ
We all agree to be successful in life. The success criterion may differ somewhat. Perhaps you, reading this article, may want to get inspired by my story and take a step closer to success. Then let me get to the point. When I was requested to write a message for female students, I pondered about it for a few days. Do we want to send separate messages to male and female students? My answer is "No, I don't." It is not necessary to differentiate between "what I want to accomplish in my life" and "what I want to do in a given year." The direction and priority of your life are determined depending on how much you desire to accomplish your goal. We all have a right to be fragile and have an obligation to pursue our dreams. Do not have a dream that makes your heart warm and makes your heart flutter just by thinking about it. The same thing will be true for those about it. However, how are you going to make your dream come true? You are the best person to know. I don't believe in fate.

研究以外の取り組み
For years, I've had many chances to engage with culturally, socially, and economically diverse students, coworkers, and friends. Working and traveling in different places across the globe taught me about cultural variety, the meaning of life, and the way to live it. When I first visited Kyoto in 2012, I still in awe with it. Since then, my main interests have been Japanese style flower arranging (chikuzai) and high-context culture. I got the impression that learning about them will go on forever. There is no end to learning in life.

Women in Research | GEM Newsletter vol.1 / 2021.10



Spring H. Han
サービスマーケティング
オーストラリア・マーケティング

現在の研究内容
My research aims to gain new green insights with opportunities to create ideas that explain what we see in the service sector. As is widely known, the technological advances are solving a new set of economic, ready in any industry. The nature of the business cannot be understood by a simple equation or by taking a single perspective. It can be accomplished by relating the business theories and concepts to current global issues and technological innovations. As a result, additional study on the effect of technology is required to comprehend a large scientific advance in providing services. My research interests are on customer-focused methods to determine casual and service excellence in order to improve performance and the customer experience.



After research symposium at the University of Cambridge
Big Ben, London, UK 2019

女子学生へのメッセージ
We all agree to be successful in life. The success criterion may differ somewhat. Perhaps you, reading this article, may want to get inspired by my story and take a step closer to success. Then let me get to the point. When I was requested to write a message for female students, I pondered about it for a few days. Do we want to send separate messages to male and female students? My answer is "No, I don't." It is not necessary to differentiate between "what I want to accomplish in my life" and "what I want to do in a given year." The direction and priority of your life are determined depending on how much you desire to accomplish your goal. We all have a right to be fragile and have an obligation to pursue our dreams. Do not have a dream that makes your heart warm and makes your heart flutter just by thinking about it. The same thing will be true for those about it. However, how are you going to make your dream come true? You are the best person to know. I don't believe in fate.

研究以外の取り組み
For years, I've had many chances to engage with culturally, socially, and economically diverse students, coworkers, and friends. Working and traveling in different places across the globe taught me about cultural variety, the meaning of life, and the way to live it. When I first visited Kyoto in 2012, I still in awe with it. Since then, my main interests have been Japanese style flower arranging (chikuzai) and high-context culture. I got the impression that learning about them will go on forever. There is no end to learning in life.

2. 個別の教育プログラムの詳細

(1) ビジネス・リーダーシッププログラム

- 先行き不透明な組織、事業環境や世界的規模での競争が激化する市場において複雑な情報を処理し、リスクをとった意思決定を迅速に実行できるリーダーを育成。ケース・スタディやディスカッションを中心に理論と実践を融合した教育を実施。
- **基礎科目（16単位以上）**
ミクロ経済、組織行動、経営戦略、マーケティング、会計学 など
- **専門科目（14単位以上）**
Strategic Management : Case Analysis, Strategy & Practice for Global Open Market, Corporate Governance, 問題解決思考、人的資源管理論、リーダーシップ論、ビジネスエッセンス、Firms & Industrial Organization in Japan、パブリック・リレーションズ論、Business and Government from a Global Perspective、Business Development、Corporate Strategy and Organization、アントレプレナーシップとファイナンス など
- **実務科目（8単位以上）**
マーケティングリサーチ、M&A実践論、企業金融のフロンティア、サプライ&デマンドチェーン・マネジメント、価値マネジメント：戦略、リスク、財務、Turnaround Management、企業金融とマネジメント、研究・事業開発マネジメント、現代マーケティング など
- **発展科目（4単位以上）**
ビジネス・リーダーシップワークショップ、II



ビジネス・リーダーシッププログラムの概要

ミッション (教育プログラムの意義)

・経営に必要な知識とスキル全般を幅広くカバーし、スペシャリティよりもジェネラル性を重視した対応能力の高いビジネス・リーダー教育を行う

育成すべき人材像

・多様化する人材を的確に動機付け管理・指導できるリーダー

・激変する市場環境に柔軟に対応できる判断能力を持ち、組織内の迅速な行動を始動するエグゼクティブおよび上級管理職

修了後の進路等

・外資系経営コンサルティング
・国内経営コンサルティング
・外資系ITコンサルティング
・外資系投資銀行
・商社
・起業
・メガ・ベンチャー
・上場前ベンチャー
・製造会社(外資、国内)



(2) ファイナンス・会計プログラム

- **ファイナンス分野(財務)と会計分野との両分野にまたがる人材を育成。**
経営財務や金融市場に関する知識と分析、金融商品の設計能力などから金融に関するリスクを総合的にマネジメントできる能力を獲得。
- **基礎科目 (16単位以上)**
ミクロ経済、経営戦略、会計学、ファイナンス、統計分析 など
- **専門科目 (14単位以上)**
証券投資論、企業分析、Financial Management、金融論、ファイナンス工学、会社法、Strategic Management : Case Analysis、数理ファイナンス、Corporate Governance、財務会計、管理会計、最適化、計量経済学、コーポレートファイナンス、人的資源管理論、ポートフォリオ理論、ビジネスエシックス、サービス(無形資産)会計、International Accounting、パブリック・リレーションズ論、公会計論、デリバティブ論、Accounting、Venture Creation and Financing、アントレプレナーシップとファイナンス など
- **実務科目 (8単位以上)**
M&A実践論、企業金融のフロンティア、会計監査論、価値マネジメント:戦略、リスク、財務、企業価値創造と評価、管理会計特論、金融工学の基礎と実務への応用、企業金融とマネジメント、アセットマネジメントの実務と法、金融資本市場論、先端バンキング論、セキュリタイゼーション、「社会と税」及び「国民と税」、Inside Investment Bank、バリュエーション(企業価値評価と株式評価) など
- **発展科目 (4単位以上)**
ファイナンス・会計ワークショップI、II



プログラムの目的と育成する人材像

- **グローバルスタンダードであるアカウンティングとファイナンスの基礎理論と専門理論を正しく学び、豊富な実務科目等を通じて実務への応用力を養う**
- **金融機関・事業会社・コンサルティング・ベンチャーなどで、企業価値向上に向けた課題解決に取り組み活躍することができる人材の育成**
- **ファイナンスに秀でた公認会計士、会計やファイナンスに関する高度な専門知識を有する証券アナリスト等の金融人材の育成(1年半コース)**



(3) サービス&ホスピタリティプログラム (サービス価値創造プログラムより改称)

- サービス産業の生産性向上や製造業を含めた産業の高付加価値化、価値持続化を目指すプログラム。総合的なホスピタリティ経営、サービスデザイン、公共インフラ経営などの能力開発により高度サービス化社会をけん引する人材の育成を実施。
- **基礎科目（16単位以上）**
組織行動、経営戦略、マーケティング、会計学、統計分析など
- **専門科目（14単位以上）**
Inter-cultural communication, Transportation and Logistics Management, 人的資源管理論、ビジネスエシックス、サービス経営論、サービス(無形資産)会計、パブリック・リレーションズ論、サービスモデル活用論、サービス創出方法論、Organization and Management, Business Modeling and Design, おもてなし経営論、サービスファイナンス論、Global Tourism & Hospitality Management など
- **実務科目（8単位以上）**
サプライ&デマンドチェーン・マネジメント、ツーリズム産業論、グローバルロジスティクスと海運、ビジネスコンサルティング実務、研究・事業開発マネジメント、サービス産業事例分析、価値共創型IT活用論、製造業のサービス化と価値創造、まちづくりとまち経営、ソーシャル・イノベーション事例分析、京都観光・文化論、デスティネーション・マネジメント論、おもてなし経営論 など
- **発展科目（4単位以上）**
サービス&ホスピタリティワークショップ、Ⅱ



デジタルディスラプション時代における新しい経営・事業創造

- **おもてなし科学を活かすサービス・マネジメントの研究教育**
 - デジタル社会(デジタルディスラプション)時代において、サービス産業だけではなく、製造業や農林漁業を含めて日本産業全体をサービスとホスピタリティという観点でとらえなおし、持続的な価値の創出を目指すビジネスモデルの研究
 - ITや新技術、シェアリング・エコノミーなどの新たなビジネスモデルの研究を通じたサービスとホスピタリティのイノベーション
 - おもてなしの科学的分析と日本型サービスのイノベーション
- **目指すべき人材像**
 - 企業や組織単位の生産性向上に資することだけでなく、業種・業務横断的な統合的視点で、サービス価値創出や新事業開発を行う人材育成としての要請が高まっていることによります。



(4) プロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラム

- 国際的な大規模プロジェクト、新規技術開発など、比較的大規模な企業や行政機関が特定目的の達成を目指して取り組むプロジェクトに対応するプログラム。現代のビジネスにおいて大変重要なプロジェクトを経営管理できる人材を目指し、財務管理や戦略・組織管理などの能力を開発。
- **基礎科目（16単位以上）**
ミクロ経済、経営戦略、会計学、統計分析、プロジェクトマネジメント など
- **専門科目（14単位以上）**
Overseas Project Management Seminar, Fundamental IO Analysis of Econ & Management, 問題解決思考, Transportation and Logistics Management, ビジネスエシックス、パブリック・リレーションズ論, Environmental Challenges and Business, エネルギービジネス展開論 など
- **実務科目（8単位以上）**
公共資産会計論、環境経営, Disaster Prevention&Recovery Management, Maintenance & Management of Infrastructure, グローバルロジスティクスと海運, グローバルロジスティクスと貿易, Project Finance, Risk Management & Finance, まちづくりとまち経営, 外資系投資銀行ビジネス- 理論と実務, 投資戦略とリスクマネジメント など
- **発展科目（4単位以上）**
プロジェクト・オペレーションズワークショップ、II



プロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラムの概要

- 国際的な大規模プロジェクト
(インフラストラクチャーの整備, 維持管理)
 - 新規技術開発
 - 情報システム開発 など
- ➡ **連携組織**
(プロジェクトチーム)

プロジェクトマネージャーの重要性

国際的な感覚, 技術力, 経営などの
多様な能力をもったプロジェクト
マネージャーを養成



経営管理能力の開発

➡ { 技術管理
財務管理
戦略管理
組織管理



(5) 観光経営科学コース

- サービス産業の生産性向上や製造業を含めた産業の高付加価値化、価値持続化を目指すプログラム。総合的なホスピタリティ経営、サービスデザイン、公共インフラ経営などの能力開発により高度サービス化社会をけん引する人材の育成を実施。
- **基礎科目（12単位以上）**
組織行動、経営戦略、マーケティング、会計学、統計分析など
- **専門科目（18単位以上）**
Inter-cultural communication、Transportation and Logistics Management、人的資源管理論、ビジネスエシックス、サービス経営論、サービス(無形資産)会計、パブリック・リレーションズ論、サービスモデル活用論、サービス創出方法論、Organization and Management、Business Modeling and Design、おもてなし経営論、サービスファイナンス論、Global Tourism & Hospitality Management など
- **実務科目（8単位以上）**
サプライ&デマンドチェーン・マネジメント、ツーリズム産業論、グローバルロジスティクスと海運、ビジネスコンサルティング実務、研究・事業開発マネジメント、サービス産業事例分析、価値共創型IT活用論、製造業のサービス化と価値創造、まちづくりとまち経営、ソーシャル・イノベーション事例分析、京都観光・文化論、デスティネーション・マネジメント論、おもてなし経営論 など
- **発展科目（4単位以上）**
サービス & ホスピタリティワークショップ、II



観光経営科学コースが目指す経営能力

① 日本の観光 魅力を発信

- ・ 観光の地域と産業をマーケティング
- ・ 世界に文化と魅力をプロモーション

② ホスピタリティの 革新

- ・ 日本のホスピタリティを科学的分析
- ・ そのサービスをイノベーション

③ 新たなビジネスの 開発

- ・ 観光の新たなビジネスを開発する能力
- ・ ITの導入や他産業の分析



経営研究センター

【目的】企業や公的機関との密な連携を図り、
本学の強みである文理融合型のアプローチにより
課題解決のための経営研究を推進



経営管理大学院附属
経営研究センター

【地域創生デザイン室】地域の「スーパストラクチャー（経済・社会・文化・歴史などの営み全て）」の担い手となる起業家の育成を軸とし、それを支える「インフラストラクチャー（交通、情報通信など）」や「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」と「スーパストラクチャー」との相互作用を勘考しながら、地域経済の振興や再生に寄与

【各地域との協力協定】下記の地域等と協力協定を締結し、地域経済と地域社会の発展等に寄与するための、調査研究、人材育成等の事業を推進

例 熊本県天草市（H23.12.27）

持続可能な地域づくりを目指し協力協定締結

天草地域の農林水産業および観光の資源・
人材を活用し、暮らし・仕事・楽しみを
作り出すための「起業支援」や「地域活
性化プロジェクト創出」を実施。
毎年、一般市民ならびに高校生を対象に
「天草宝島起業塾」を開講。外国人留學
生などをインターンシップに派遣。



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

37

経営管理同窓会

□ 経営管理大学院同窓会は卒業生によって設立されたものの、停滞する傾向があったため、2016年、経営管理大学院10周年を機会に、同窓会を再スタートした。

□ 同窓会は、各年次の代表による理事と、大学教員3名（院長を含む）で役員を構成。

□ 卒業生および同窓会会員管理のための卒業生情報管理システム（クラウドサービス）を導入（大学院）

□ 卒業生および同窓会への情報発信（メール、Facebook）



□ 2016年度 再スタートの同窓会総会（10周年記念式典に同時開催）

□ 2017年度 総会・講演会 OBによる業界説明会（コンサル業界）

□ 2018年度 役員交代（会長 藤原大豊）総会・講演会 学位交付式後のGet Together Partyなどを実施

□ 2020年度 役員交代（会長 大森貴之）



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

38

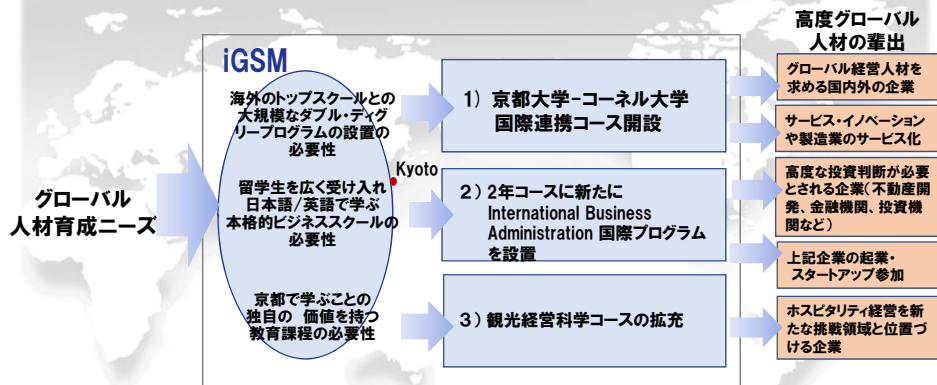
3. 国際化の展開（グローバル化 iGSM構想）



経営管理研究部・教育部のグローバル化「iGSM」構想

※「iGSM(International Graduate School of Management)」

大学院経営管理教育部 → 国際的な文理融合ビジネススクール「iGSM」に発展

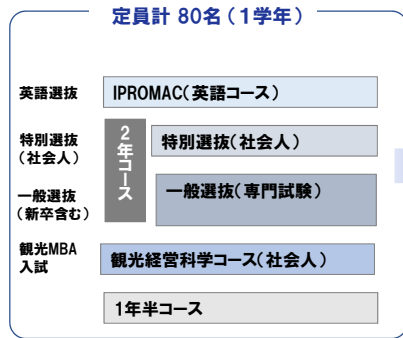


高度な経営専門領域でリーダーシップ、イノベーション、ホスピタリティを推進できる俯瞰的経営人材、起業家の育成

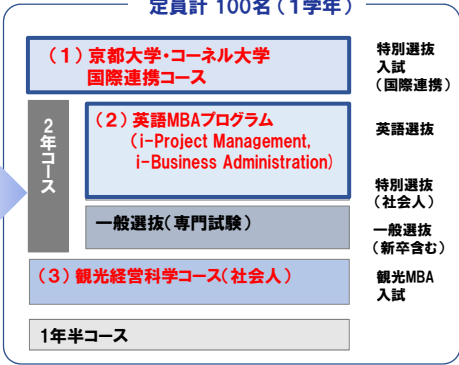


「iGSM構想」で再編・発展する教育課程

経営管理専攻(MBA 専門職学位課程)



定員計 100名 (1学年)



経営科学専攻(Ph.D. in Management Science 博士後期課程)



その他(社会人向けEMBA、入門コース) non-degree

2018年4月

2019年4月～



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

41

(1) 京都大学-コーネル大学国際連携コース (KC-CDO)

- Kyoto-Cornell International Collaborative Degree Opportunity -

□ 京都大学経営管理大学院と米国コーネル大学ビジネススクール(ホテル経営大学院)が連携して行う2年間の修士課程

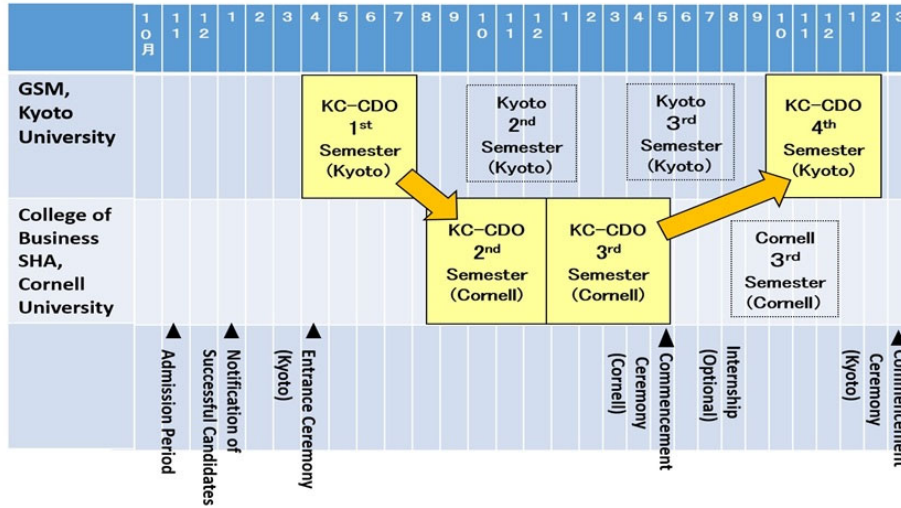
- デジタル社会・ESG重視時代において、人の役割を明確化しホスピタリティなど無形資産を有効活用する事業開発・経営人材の育成
- 京都大学MBA(Master of Business Administration)コーネル大学MMH(Master of Management in Hospitality)を授与
- 京都大学とコーネル大学それぞれに出願し、手続きを実施
- 履修する学期単位に各々の大学から授業料を賦課
- KC-CDO修了要件: 合計58単位 ※統合カリキュラム体系の開発
 - コーネル大側は、3学期間48単位修了(12単位読み替え)
 - 京大側は、4学期間42単位修了(20単位読み替え)



京都大学 経営管理大学院
© Graduate School of Management, Kyoto University 2021

42

京都大学ーコーネル大学国際連携コース スケジュール - Kyoto-Cornell International Collaborative Degree Opportunity -



コーネル大学の国際連携コース推奨理由

コーネル大学が京都大学との連携において期待すること

日本文化を象徴する京都の文化を理解し学ぶこと

- ・持続可能な社会に貢献 cf. SDGs
- ・老舗の企業理念や運営、組織の在り方に学ぶ
- ・茶道や華道、禅などの日本の伝統文化は欧米のビジネストップにとって教養
- ・日本の伝統文化が超スマート社会におけるストレス解消の役割を果たす可能性

京都大学-コーネル大学国際連携コースの独自性

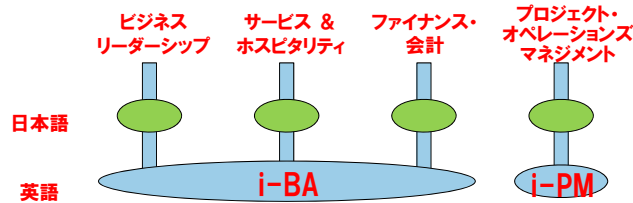
日本で学び、かつ、アメリカで学ぶことを通じて、異文化を背景とした相互理解、コミュニケーション、ネゴシエーション、チームワークに取り組むために必要なメンタリティ、寛容性、表現技術等を獲得
ー京都大学の総合大学としてのポテンシャルを最大限に活用

ホスピタリティは特に文化的文脈に強く依存するものであり、文化的文脈を理解し、それを活用できる
サービス経営人材育成、俯瞰的リーダーシップ人材育成の推進

(2) 英語MBAプログラムの拡充

□ 国際プロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラム (IPROMAC英語コース)の2年コースへの統合、拡大

- IPROMAC(International Project Management Course)は世界各国から70名以上の入学希望のある、全科目英語履修コース(現定員10名)
- 経営管理大学院のグローバル化推進のため、IPROMACを2年コースに統合
- 日本語でも英語でも履修できる教育課程に拡充再編
- International Business Administrationプログラムを新たに提供し、国際選抜枠を倍増
- ビジネスリーダーシップ、サービス、ファイナンス・会計領域の英語MBAプログラム



国際ビジネス・アドミニストレーションプログラム(i-BA) 国際プロジェクト・マネジメントプログラム (i-PM)

1. 英語履修科目

(1) 国際ビジネス・アドミニストレーションプログラム(i-BA)
International Business Administration

(2) 国際プロジェクト・マネジメントプログラム (i-PM)
International Project Management

2. 入学定員

i-BA 10名、i-PM 10名

3. 学位

京都大学経営管理大学院経営学修士(MBA)



i-BA and i-PMの違いは何か？

□ 国際ビジネス・アドミニストレーションプログラム(i-BA)

～世界に開かれた英語によるビジネスリーダー育成～

国際ビジネス・アドミニストレーションプログラムは、学生のビジョンを実現・達成させるためのスキルを向上させながら、専門職学位(経営学修士 MBA)の取得につながるコースです。学生は、キャリアの選択肢を広げるためのビジネス知識と専門スキルを身につけます。このプログラムでは、**ビジネス・リーダーシップ**における専門性を高めることを目指すだけでなく、**サービス&ホスピタリティマネジメント、ファイナンス・会計**などの幅広い専門分野も修得します。

ワークショップの例

i-BA

1. 所有権の種類と株主の異議：シンガポールの事例
2. 貸出高と債務不履行率に対する信用度評価の効果

□ 国際プロジェクト・マネジメントプログラム (i-PM)

～国際的なプロジェクトで活躍する人材育成～

国際プロジェクト・マネジメントプログラムは、特定の目的、多様な制約、不確実性を持つ大規模な国際プロジェクトや新技術の開発プロジェクトを成功させるために必要な経営の教育課程を提供し、世界で活躍する**多様な管理能力を持つ国際的なプロジェクトマネージャー**の育成を目的としています。

ワークショップの例

i-PM

1. トルコにおけるブリッジマネジメントシステムの現状調査
2. AHPアプローチを用いたインドネシアの再生可能エネルギーPP投資プロジェクトの選定



プログラム修了要件

□ 履修期間

- 4学期制の2年間
- 1年目 1学期、2学期
- 2年目 3学期、4学期

□ プログラム修了に必要な単位数

・**42単位**

・**2科目4単位以上**(各プログラムのワークショップ I および II)

発展科目

・**8単位以上**(各プログラムの指定科目6単位以上を含む)

実務科目

・**14単位以上**(各プログラムの指定科目10単位以上を含む)

専門科目

・**16単位以上**

基礎科目



(3) 観光経営科学コースの拡充

□ 観光地域経営の高度化と魅力ある文化の国際発信

- 近年拡大するインバウンド観光客対応の国際的な観光産業、観光地マネジメントをリードする**観光経営人材を育成**
- 観光地経営(Destination Management)を通じて、地域発展の戦略的展開
- 国土交通省観光庁支援のコース創設
- 2018年4月に1期生合格者8名(出願者34名)でスタート
- 観光に関わる企業等からの社員派遣の要請、初年度の入学希望者の多さ、京都にある本大学院本コースの重要性をふまえ、受入枠を約5名から約10名に拡大
- 目指す経営能力
 - ①日本の観光魅力を発信 ②ホスピタリティの革新 ③新規ビジネス開発



国際認証EQUISの取得活動



□ 国際認証EQUIS

- ・ 欧州(本部:ブリュッセル)を中心とするビジネススクールの国際認証規格。認証取得校は202校(2021年12月時点)。

□ 取得目的

- ・ 国際化を推進し、世界のトップビジネススクールとの交流を積極的に進め、海外からの認知度を向上させる。
- ・ 国際認証の取得プロセスを通して、経営管理大学院のあるべき姿、戦略および課題について教職員間の対話を促進し、教育・研究体制および組織体制を強化する。

□ 推進メンバー

- ・ 国際認証ワーキンググループ(大学院長を含む構成員8名)が中心となって認証取得活動を推進中。

国際認証EQUISの取得活動

□活動経緯

- 2019年7月 教授会にて国際認証EQUIS取得方針を承認
- 2020年3月 EQUIS認証プロセス開始の正式申請、データシート提出
- 2020年4月 国際認証・広報室を設立
- 2020年7月 オンラインでのBriefing Visit実施
- 2020年9月 EQUIS Briefing Reportを入手
(課題:国際化の戦略、教員のカテゴリーとマネジメント情報提供)
- 2020年11月 トルコ・コッチ大学/Baris Tan教授がアドバイザーに就任
- 2021年9月 教授会にて「経営管理大学院のミッション・ビジョン・バリュー
および戦略」を承認
- 2021年10月 Eligibility(受審資格)申請、更新版データシート提出
- 2021年11月 Eligibility承認
(課題:コア教員数の維持・拡大、国際的評価とパートナーシップの構築継続、
国際レベルの研究開発)

国際認証EQUISの取得活動

□今後の取組み

- Eligibility承認時の課題を踏まえて、コア教員数の維持(拡大)、国際的評価向上と海外提携大学との連携強化、研究の国際的プレゼンス向上等を図る。
- Tan教授のアドバイスの下、Self-Assessment Reportを作成する。
- Peer Review Visit(現地審査)に向けて、大学本部および大学院内(教職員・学生)と連携し、万全の対応を期す。


□タイムライン(計画)

- 2022年9月 Self-Assessment Report提出
- 2022年11月 Peer Review Visit実施
- 2023年2月 EQUIS承認取得(認証期間:3年または5年)

4. 運営上の課題と戦略



運営上の課題（1）

- 国立大学法人としての組織運営
⇒教職員数・予算
 - 社会人教育プログラムの運営
- 
- 独自活動のため、運営に必要な経費の8割が不安定な外部資金
 - 教育研究の質の向上と競争的資金獲得のための葛藤
 - 教育の質とコストは非常に強い相関⇒継続的な財源確保
 - cf. 米国ビジネススクール
(高い)学費+それを支える制度(充実した奨学金、教育ローン、RA制度)+別収入(出版、寄附金、非正規教育、資産運用)



運営上の課題（2）

□ 教員の多様性への対処

- 特に、若手教員、女性教員、外国人教員の比率向上
- 現在、専任教員22名の内、女性教員3名、外国人教員4名のみ
- 一方、専門職大学院として、約3割以上の実務家教員が必要

□ 組織・個人への評価指標の導入の検討

□ グローバル社会・デジタル社会をみすえた 日本における専門職大学院としての位置づけ

- 教育研究の質を向上させるための国際連携、産官学連携、学際連携
- 京都、日本の地の利を生かした高度専門経営系人材育成のための教育研究の推進
- 中長期的ビジョンでの経営、非財務情報の指標化、人とAIとの役割明確化



戦略

1. 国際化

- (1) 多様な視点を尊重、促進、提供することによる世界クラスの研究・教育環境の構築
- (2) 教育の国際化
 - ・ グローバルで多様な視点から、ビジネスの理解と実践の視野を広げる。
 - 英語のMBAプログラムや特別カリキュラム活動を強化する。
 - 日本語と英語のMBAプログラム間における相乗効果を創出する。
 - 自らや他の様々なビジネス環境や文化を理解し、他者を尊重し、協力する能力を開発する。
- (3) 研究の国際的プレゼンス向上
 - ・ 海外トップジャーナルへ論文を投稿する。
 - ・ 国際学会や海外ジャーナルにおいてリーダーシップを発揮する。
- (4) 国際認証EQUIS取得による世界標準での研究・教育・組織体制強化
- (5) ハイブリッド型授業の充実化
 - ・ デジタル技術を活用する。



戦略

2. 文理融合研究・教育(多様性に富んだ人材による研究・教育)

- (1) レジリエンス、アセットマネジメント、ESG等のテーマを軸にした文理融合による優位性の向上
- (2) DX・ICTに関する研究・教育における理系シナジーの発揮
(データサイエンス・統計学の分野等)
- (3) 文化・芸術等に関わる人文科学系の研究・教育の更なる強化と科学技術との融合の実現
- (4) 文理融合によるリーダーシップ教育とグローバル人材育成
サービス&ホスピタリティ、プロジェクト・オペレーションズマネジメント、ビジネスリーダーシップ、アジアビジネス・リーダーシッププログラム等

3. 産官学連携

- (1) 産官学連携による地方創生および地域への貢献
- (2) ソーシャルインパクト、環境経営、危機管理、防災・復旧管理等の研究・教育促進
- (3) 産官学連携の寄附講座・寄附講義・エグゼクティブ教育促進

